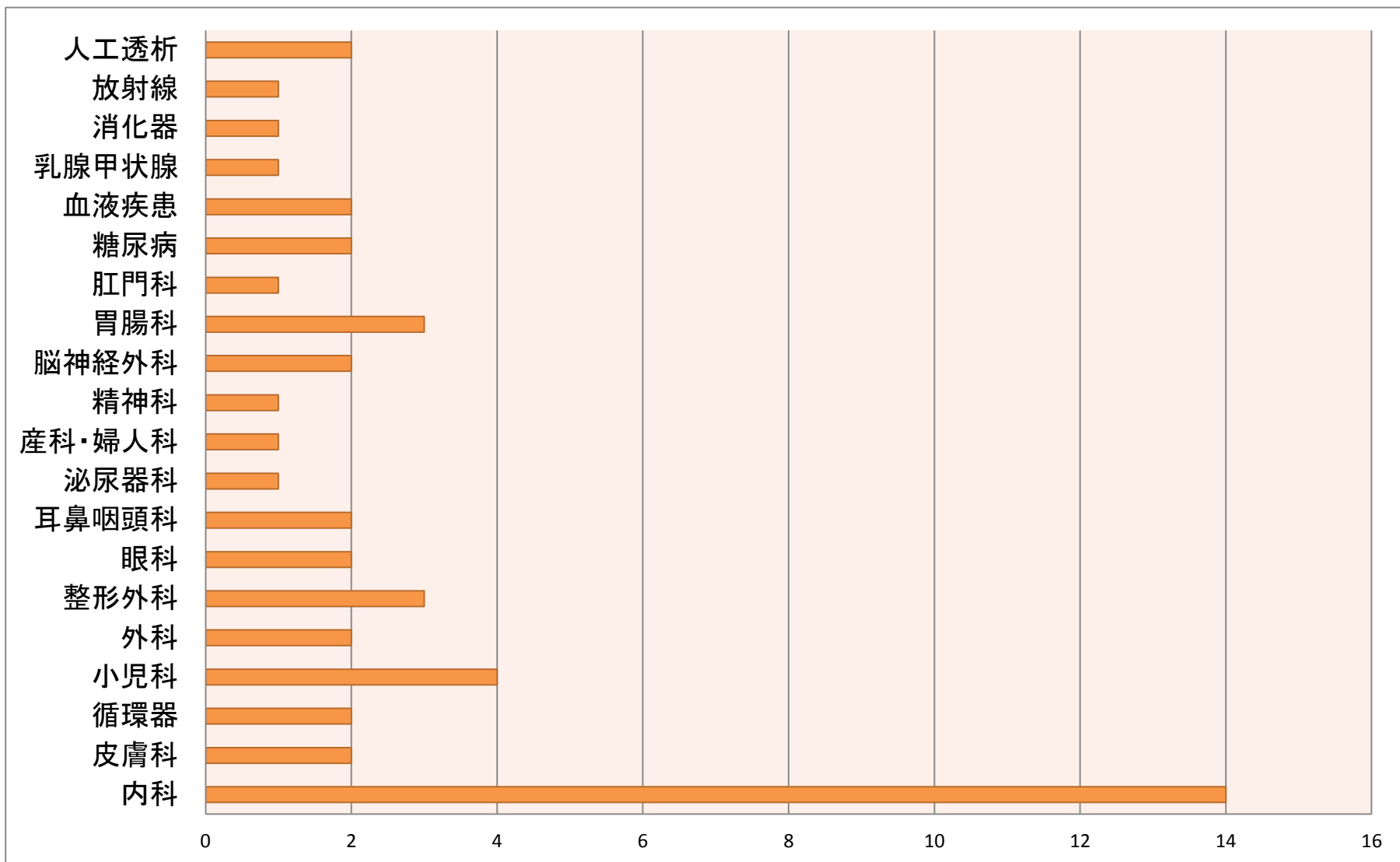


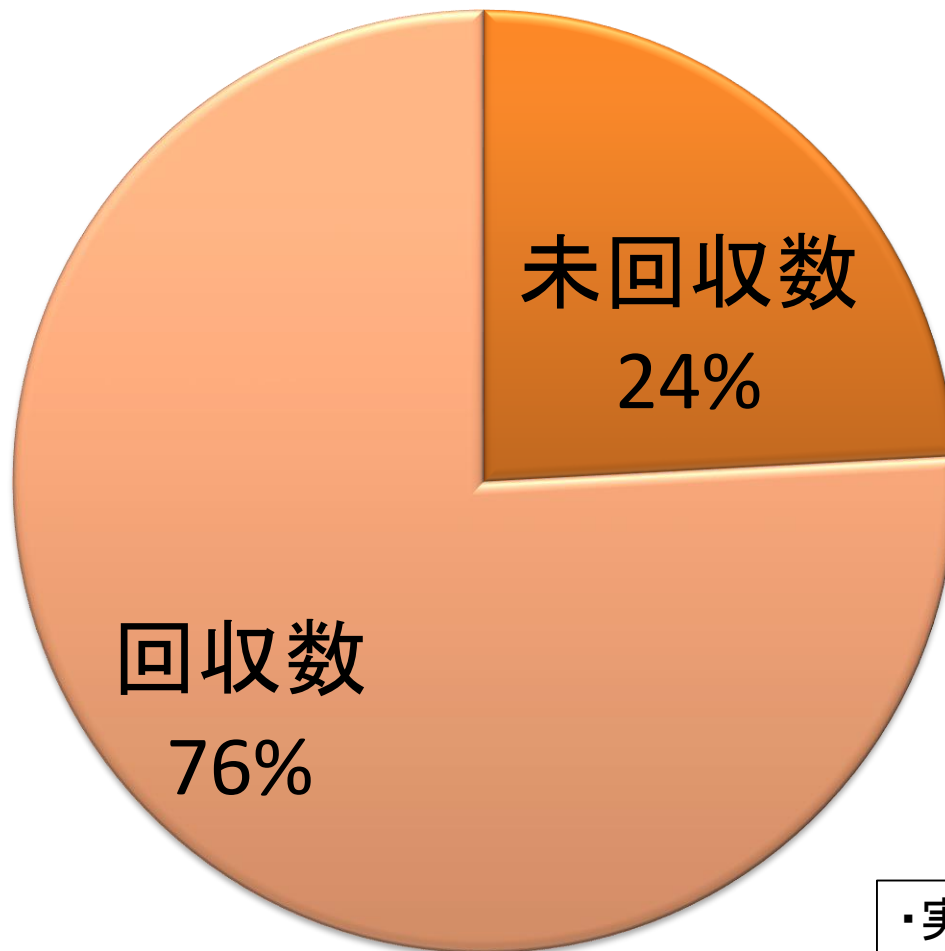
在宅医療推進事業アンケート結果 (平成25年 9月)

(医療機関アンケート)

当地域における診療科目状況



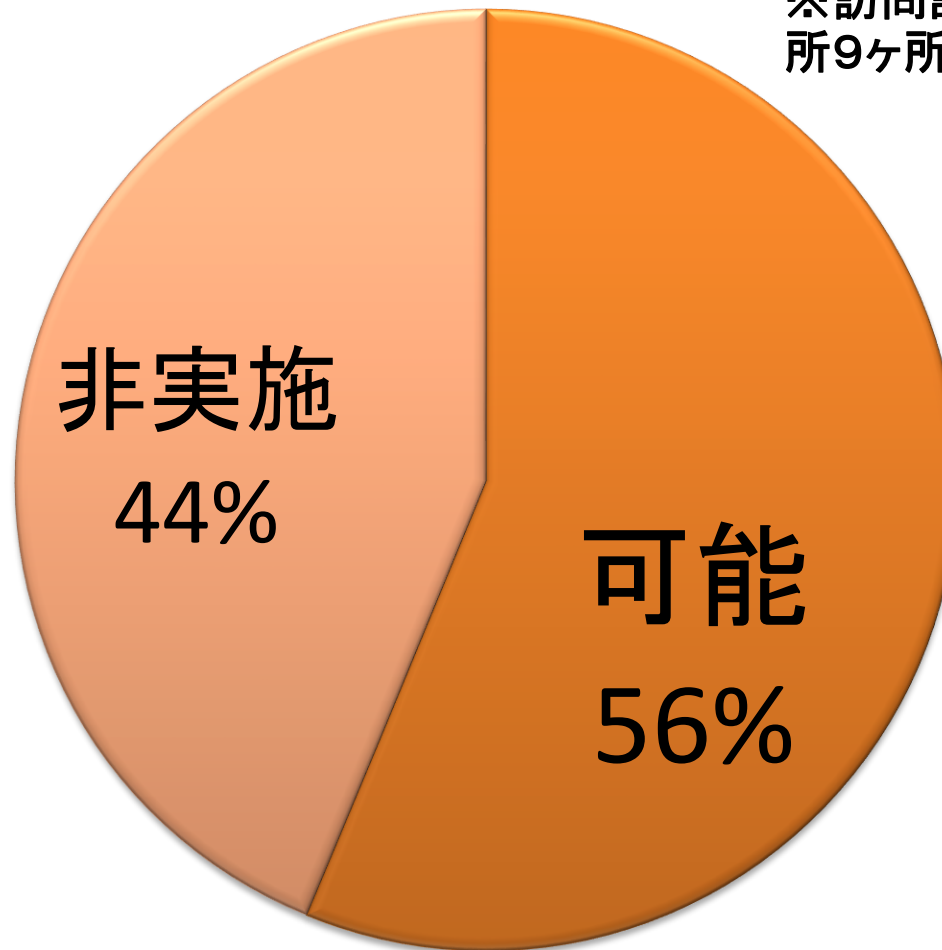
アンケート実施数と回収率



- ・実施数: 29施設
- ・回収施設: 22施設

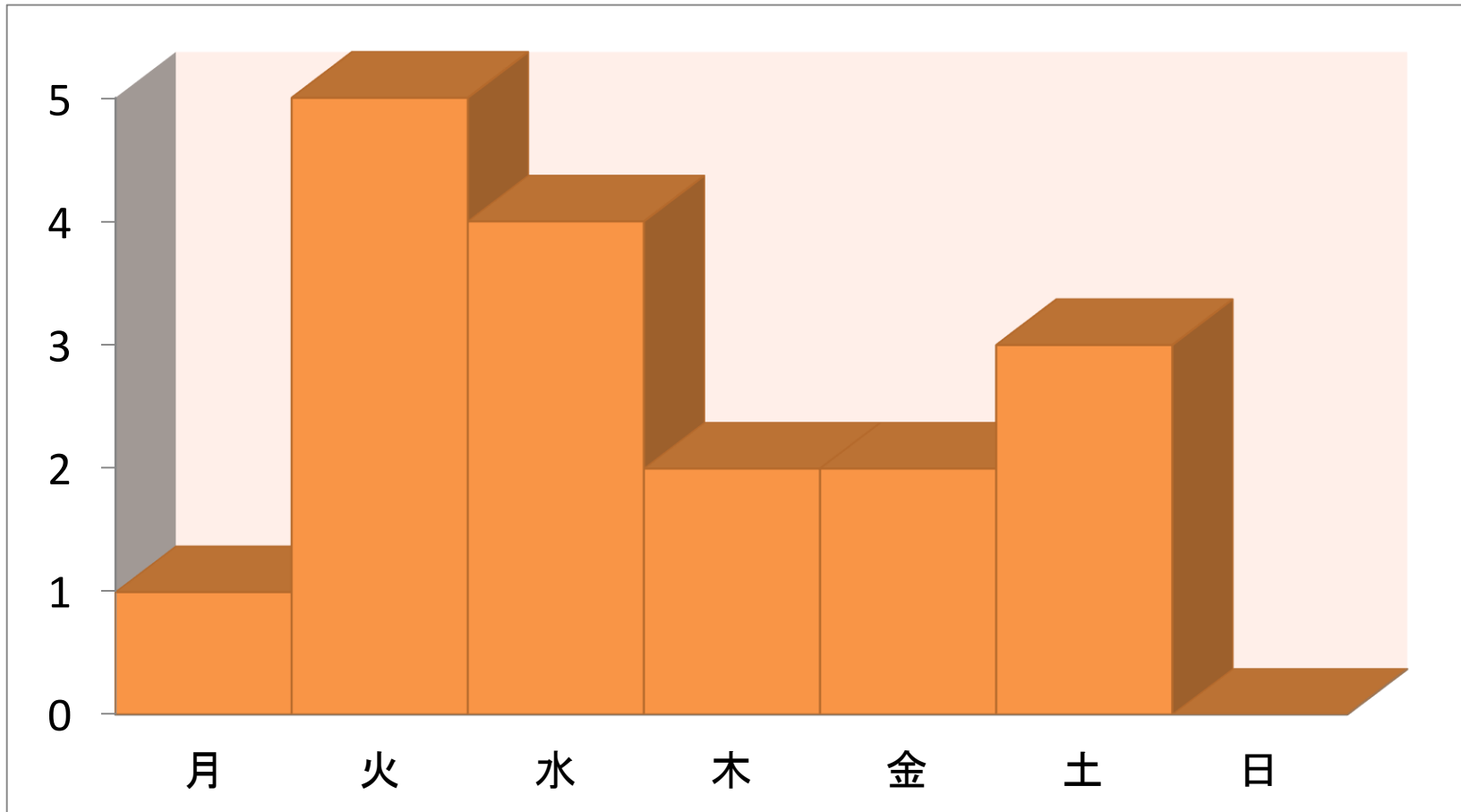
訪問診療可能な病院（診療所）

※訪問診療可能な病院、診療所9ヶ所全てが往診可能と回答



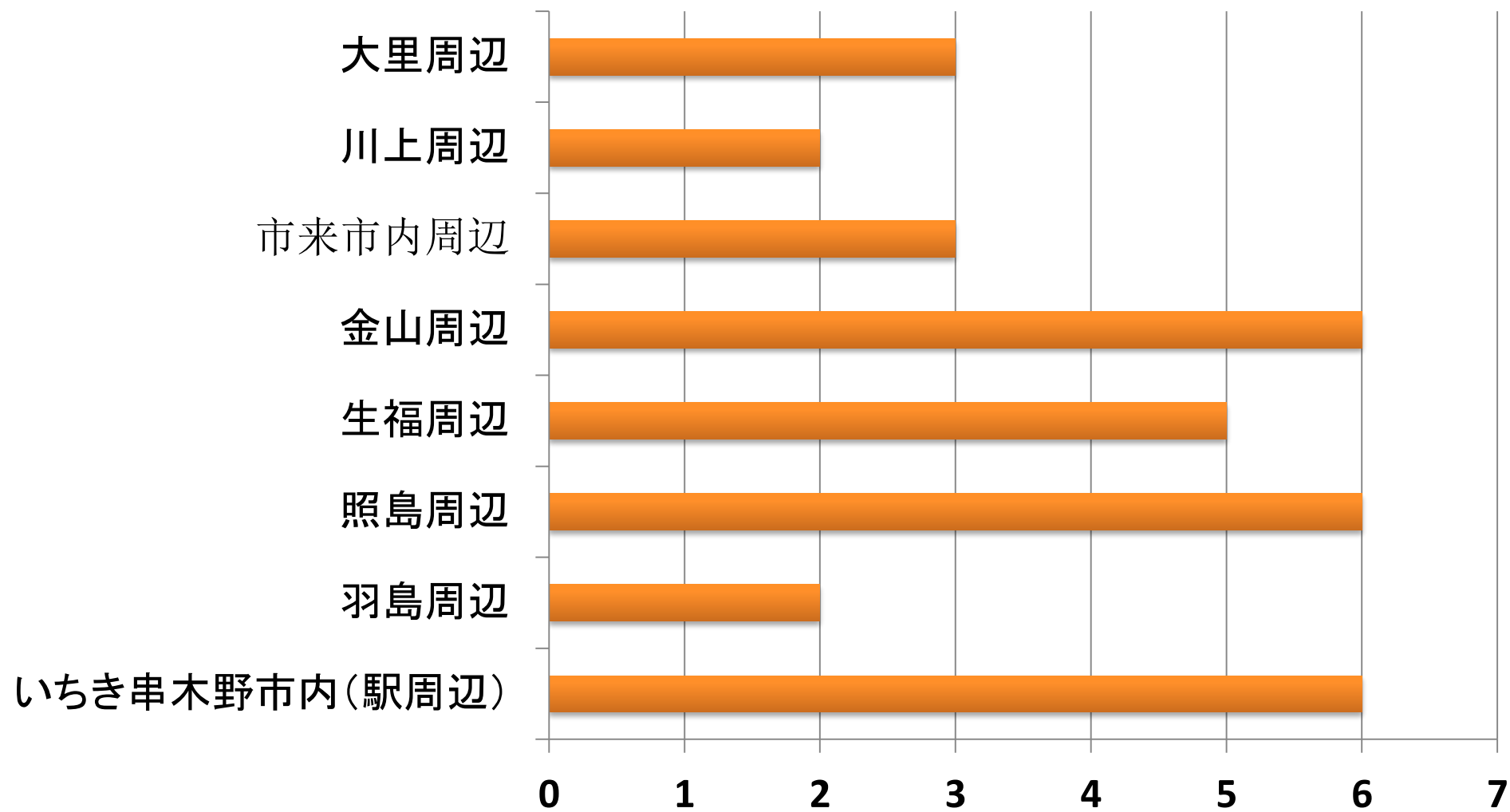
- ・可能：9施設
- ・回答があった病院、診療所（但し、耳鼻咽喉科、産科、眼科、皮膚科を除いた数）：16施設

訪問診療の実施状況（曜日）

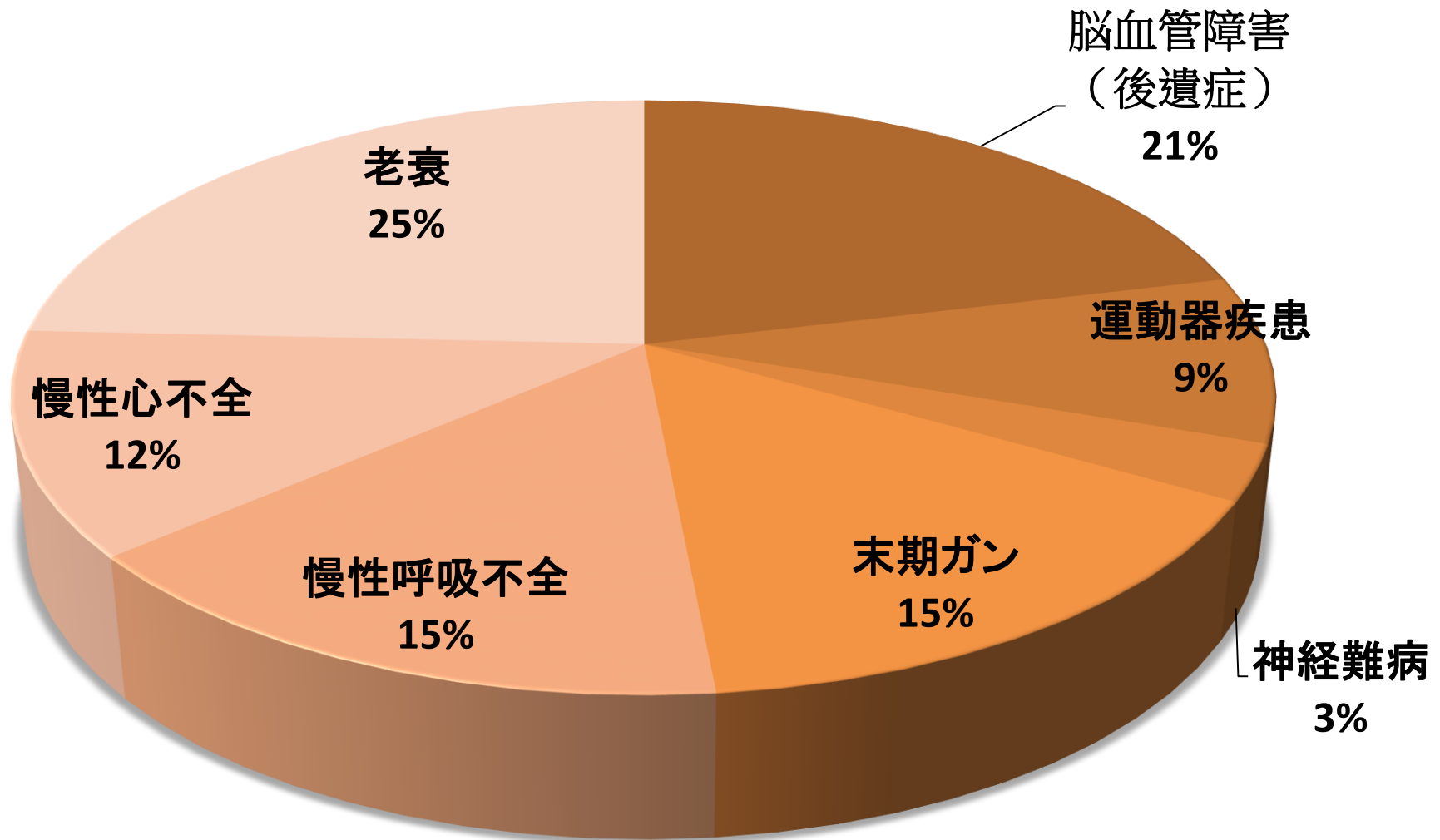


・訪問実施時間帯：ほとんどの病院、診療所が午後の時間であった。

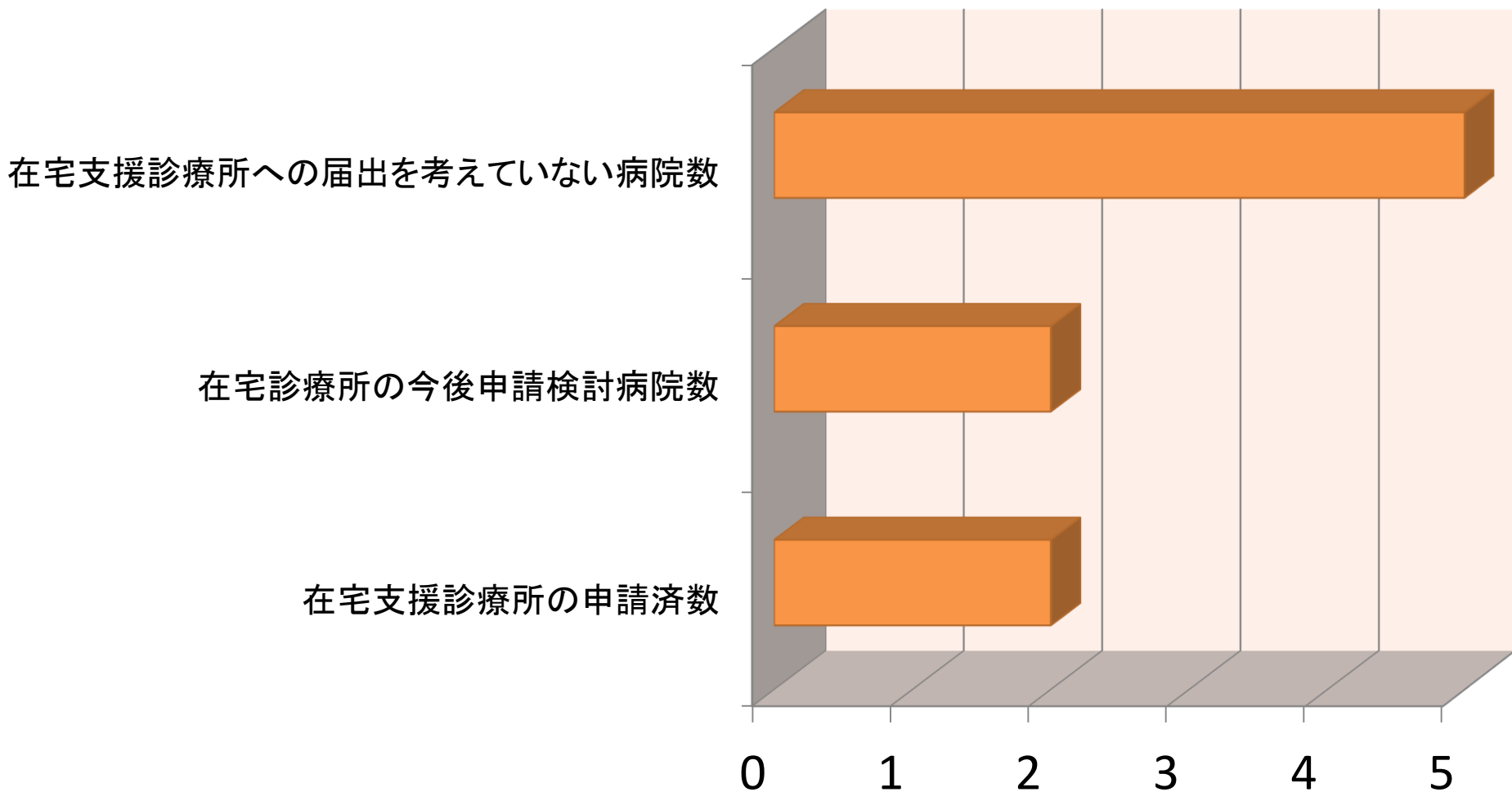
訪問診療の実施状況(地域)



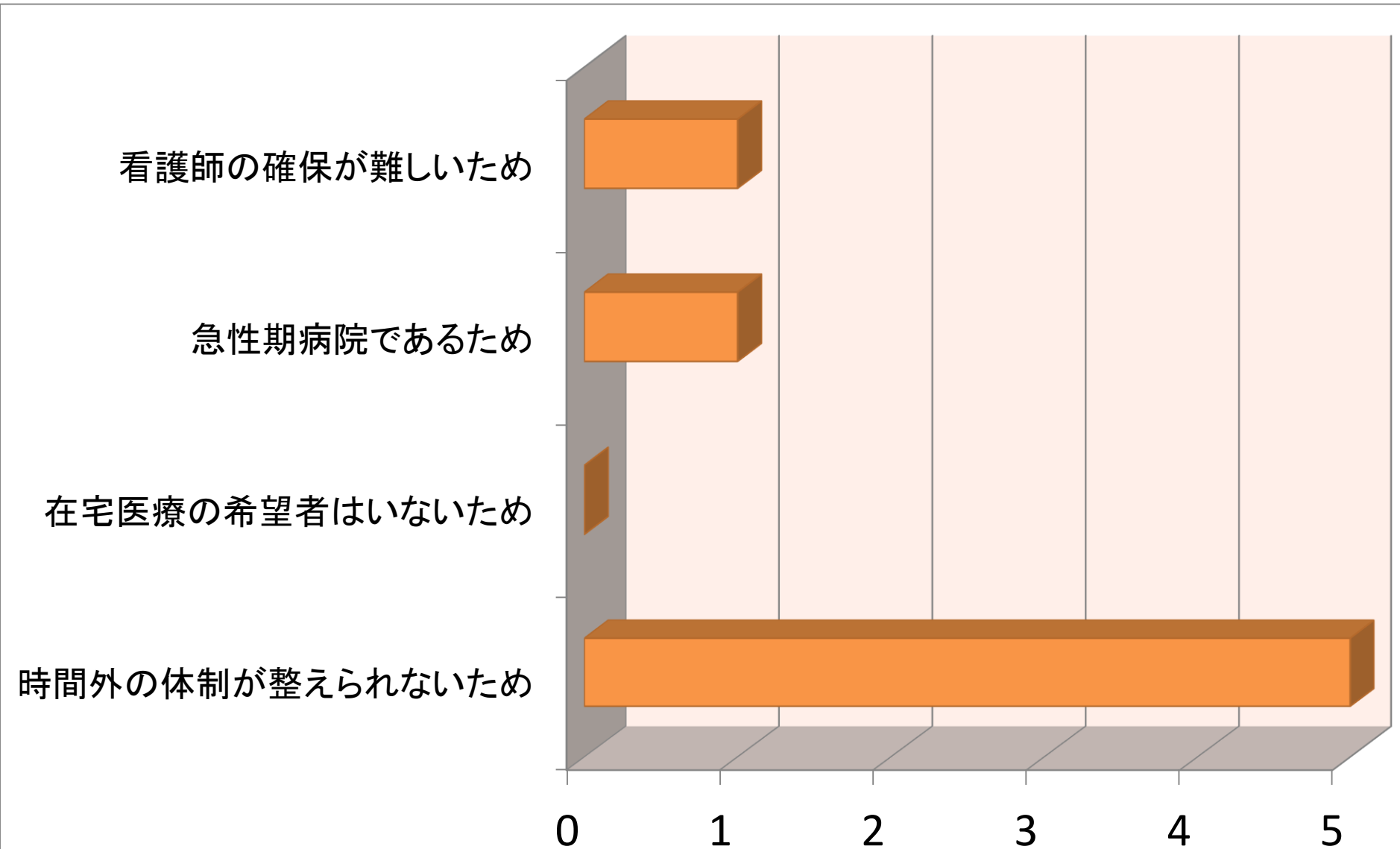
訪問診療の実施状況(疾患)



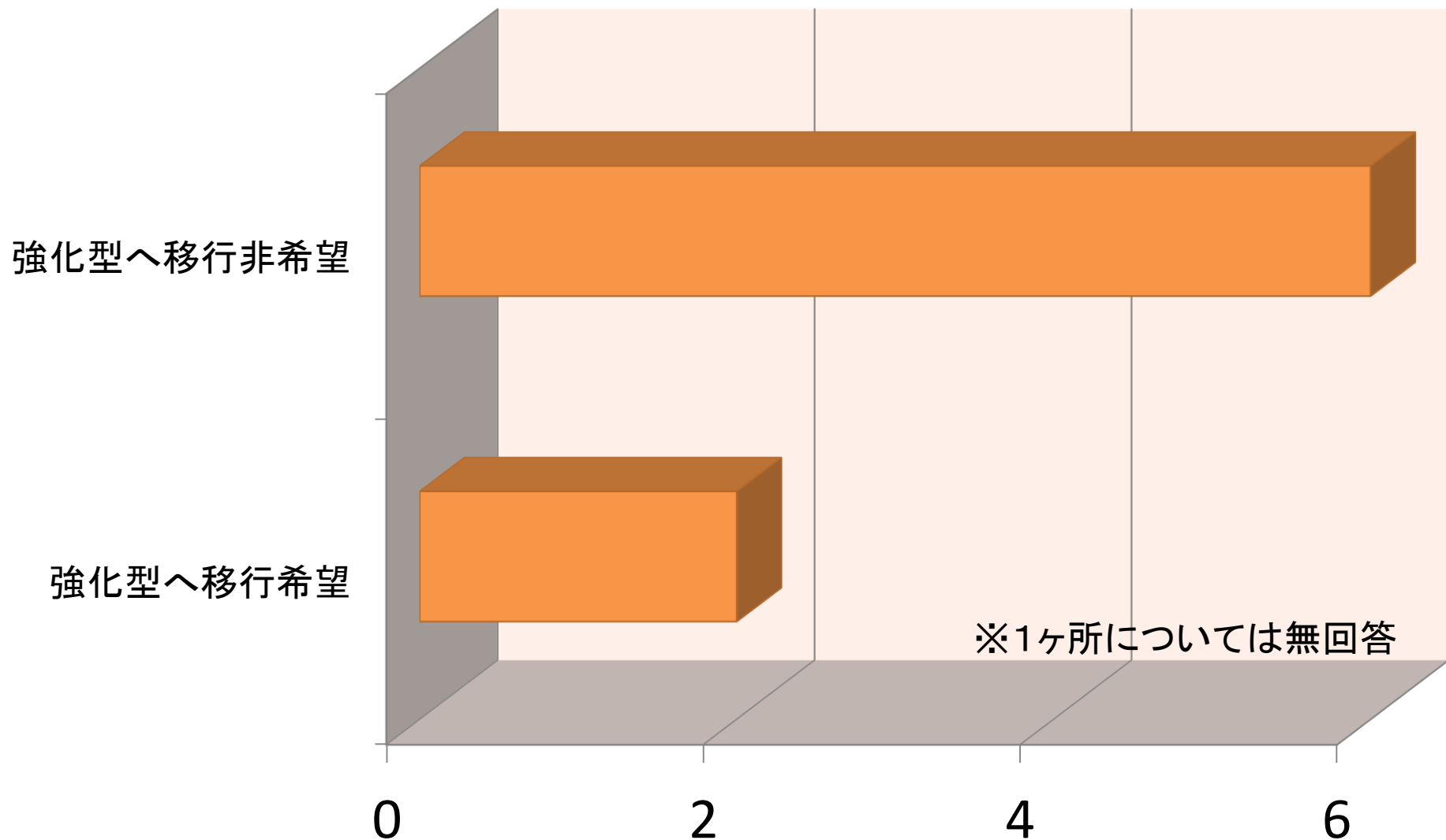
在宅支援診療所（病院）の届け出関係 （訪問診療を行っている9施設を対象）



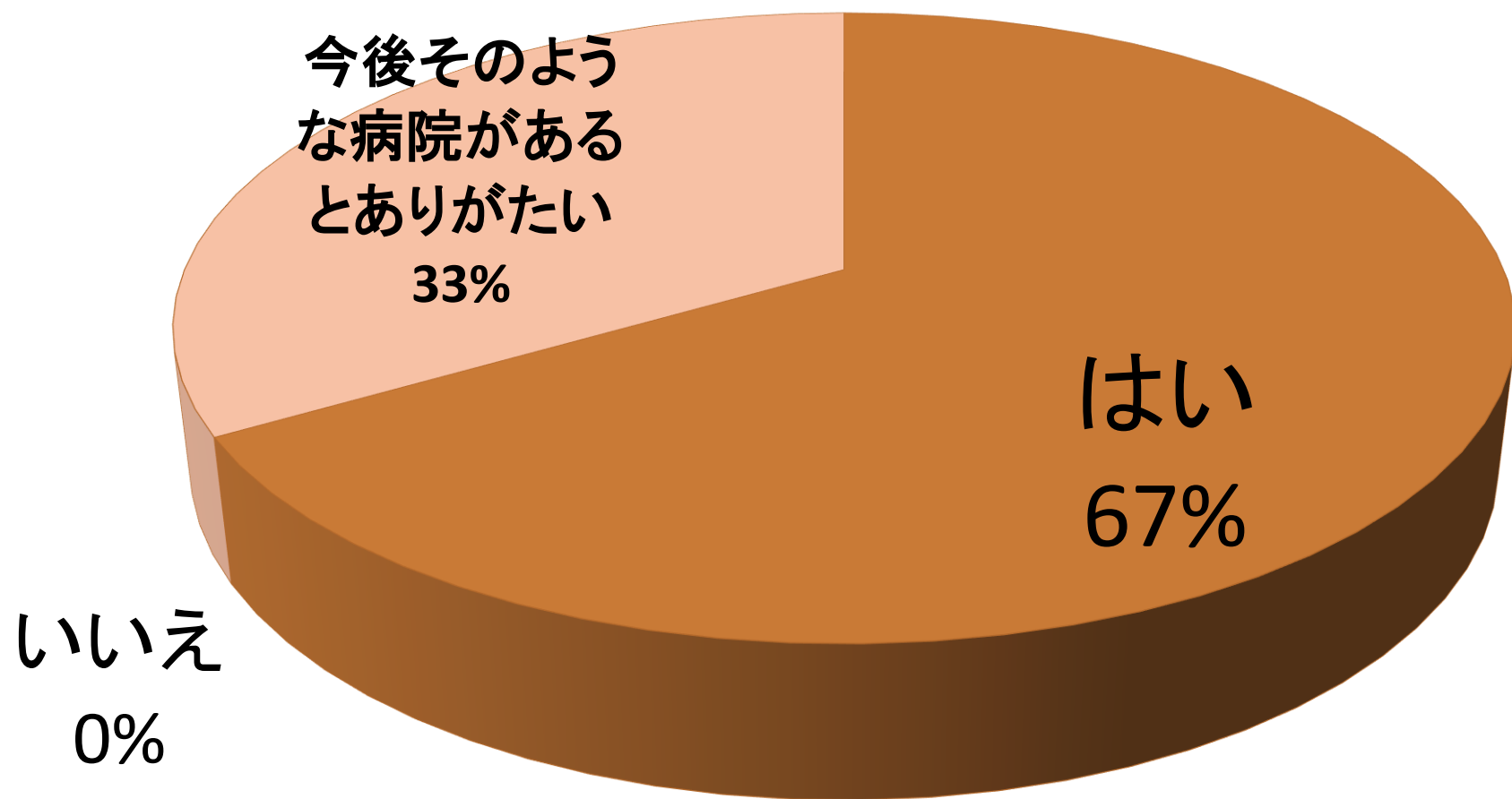
届け出を考えていない理由 (n=5)



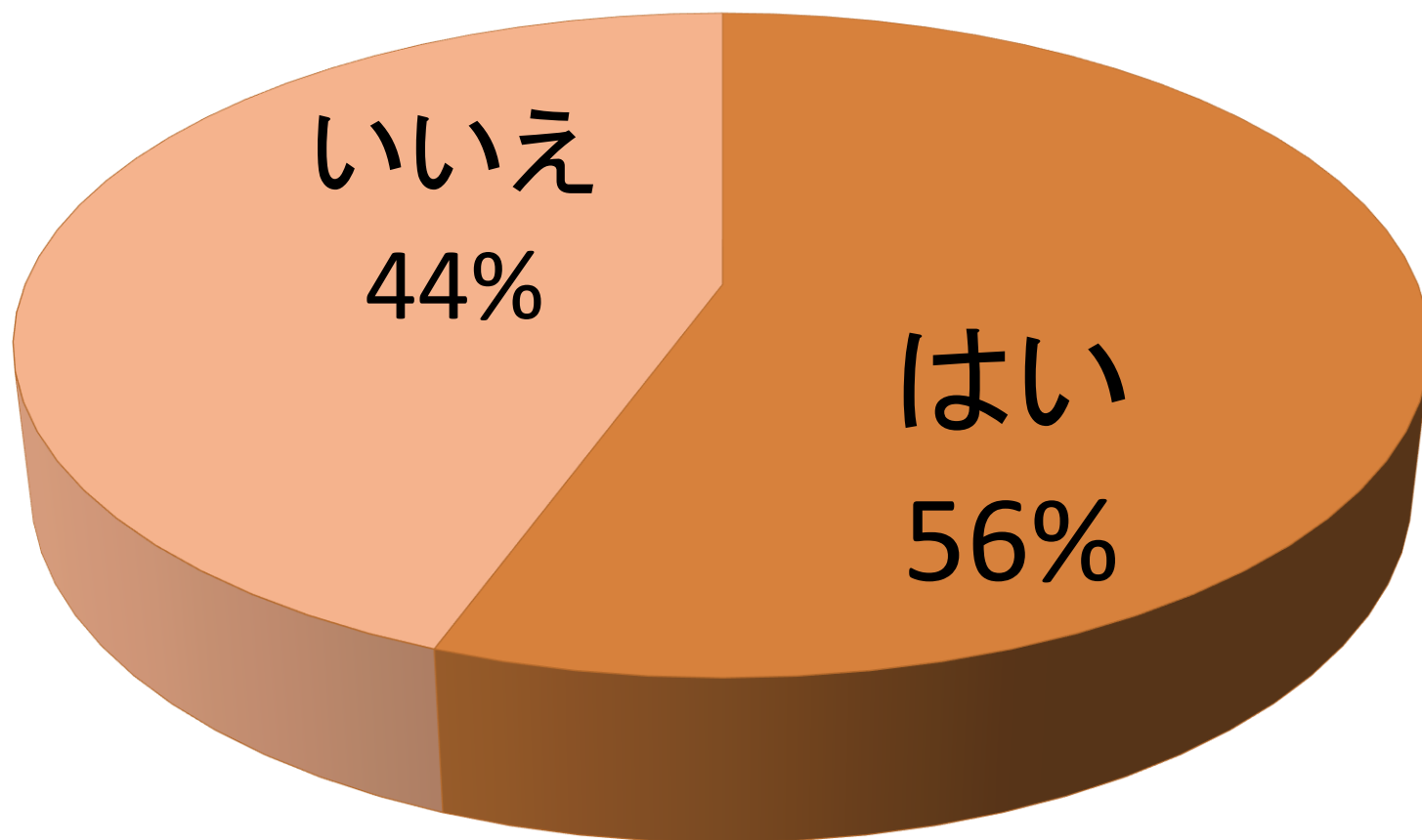
機能強化型の在宅支援診療所 (病院)への移行希望状況



レスパイト入院時の後方ベッドの保有状況 (訪問診療を行っている9施設対象)



ICTを利用した医療連携への興味の有無について (訪問診療をしている9施設対象)



- ・興味あり病院、診療所: 5施設
- ・興味なし病院、診療所: 4施設

現在ICT利用について興味を持ってない理由

(n=4)

ICTの使用方法に自信がないため



現在のところ必要性を感じないため



内容が良く分からないため



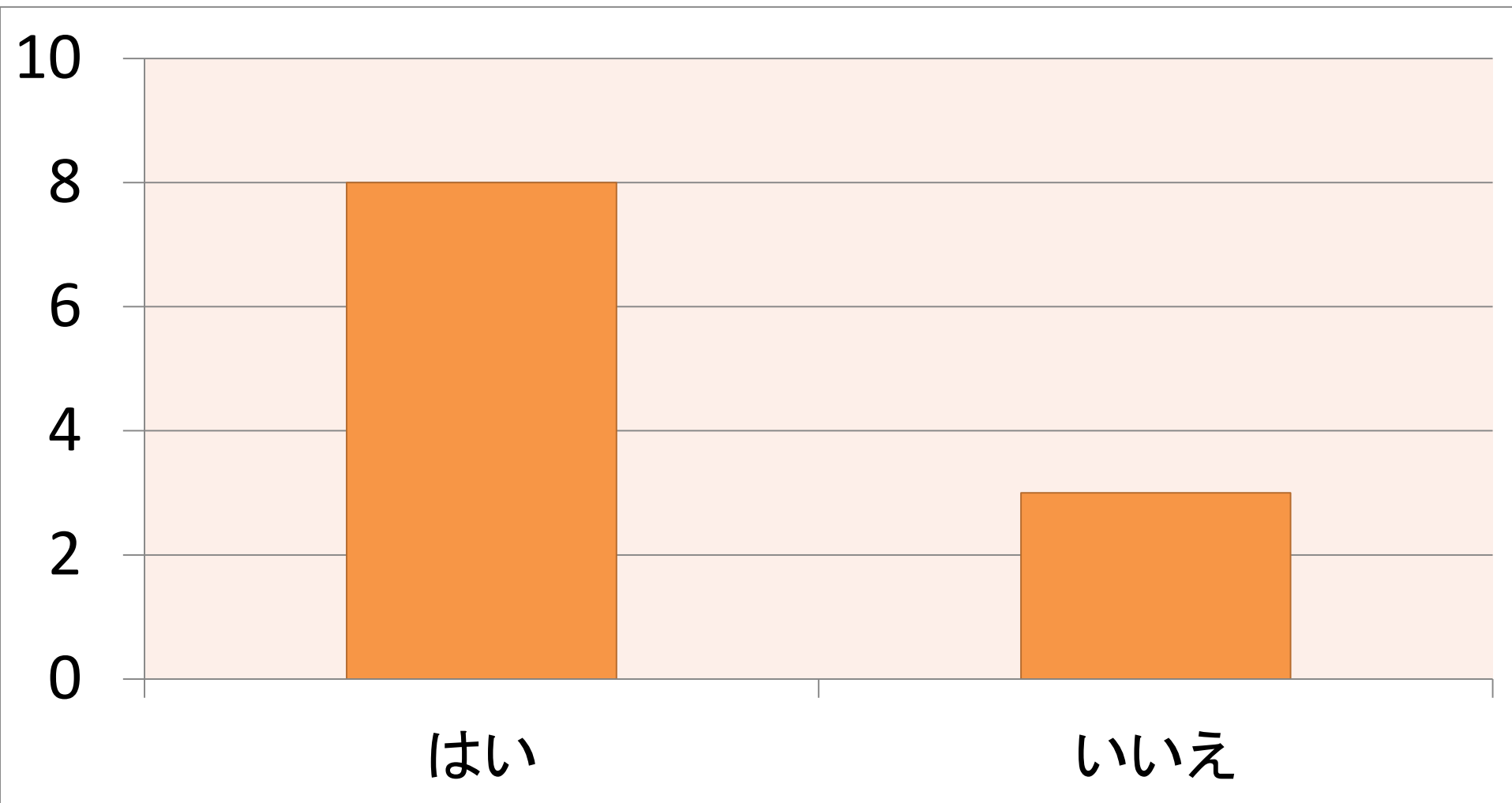
0

1

2

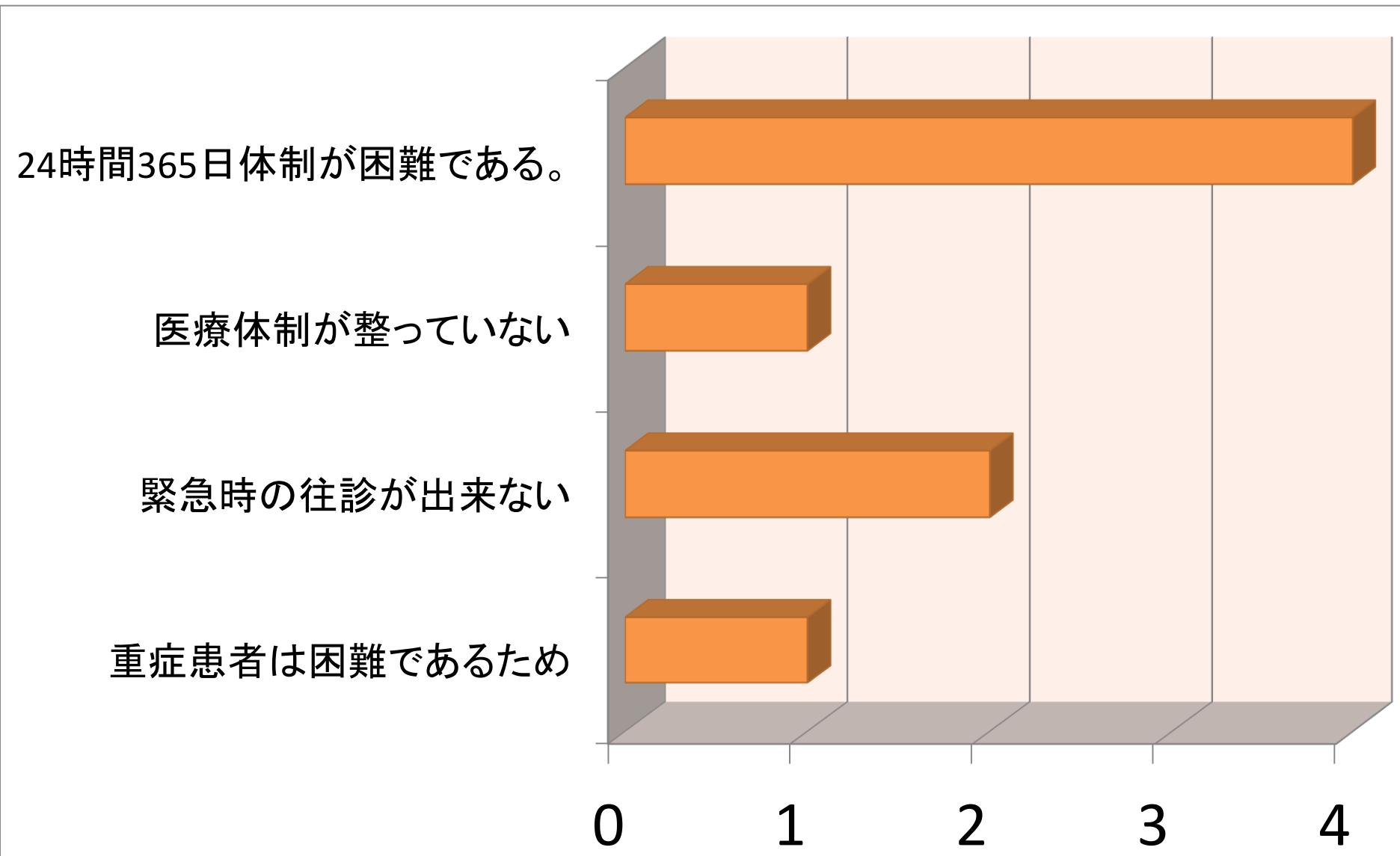
ターミナル(看取り)の可否について

※訪問診療が可能9施設と訪問診療は行っていないが、“看取り”は可能と回答された2施設の合計11施設を対象

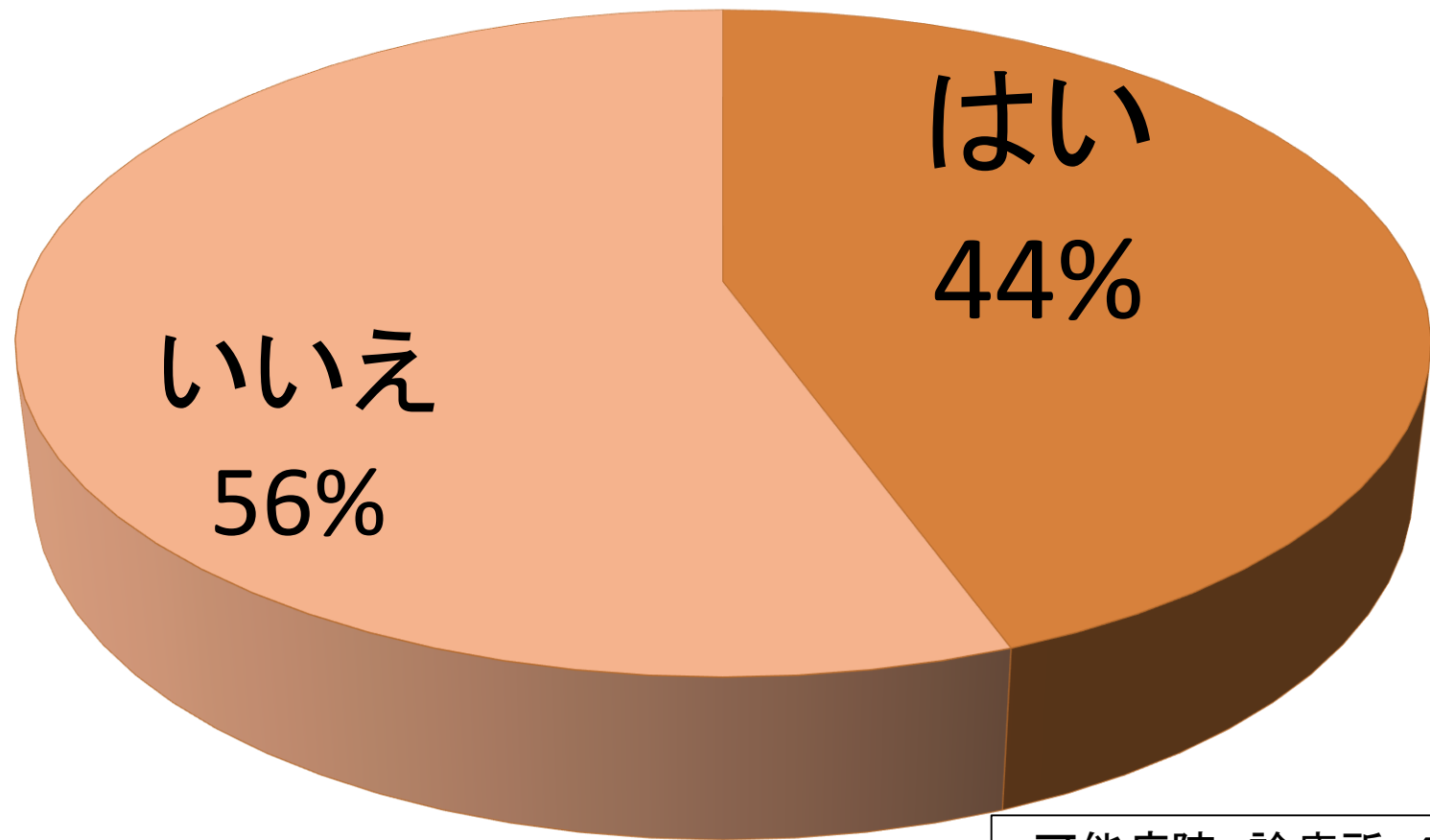


ターミナル(看取り)が困難な理由

n=3

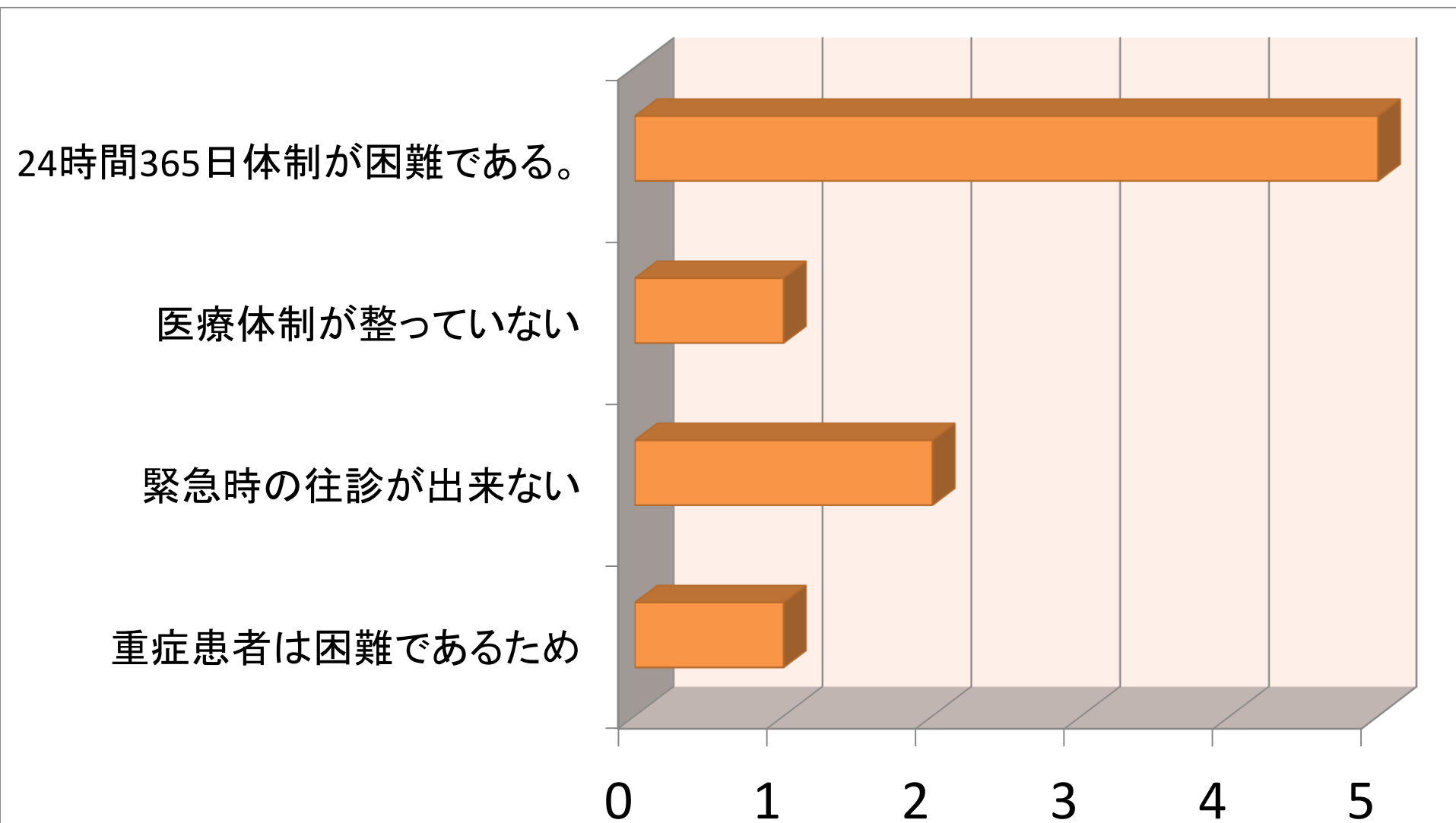


他の施設・病院からの 在宅ターミナルの受け入れ可否 (訪問診療を行っている9施設対象)

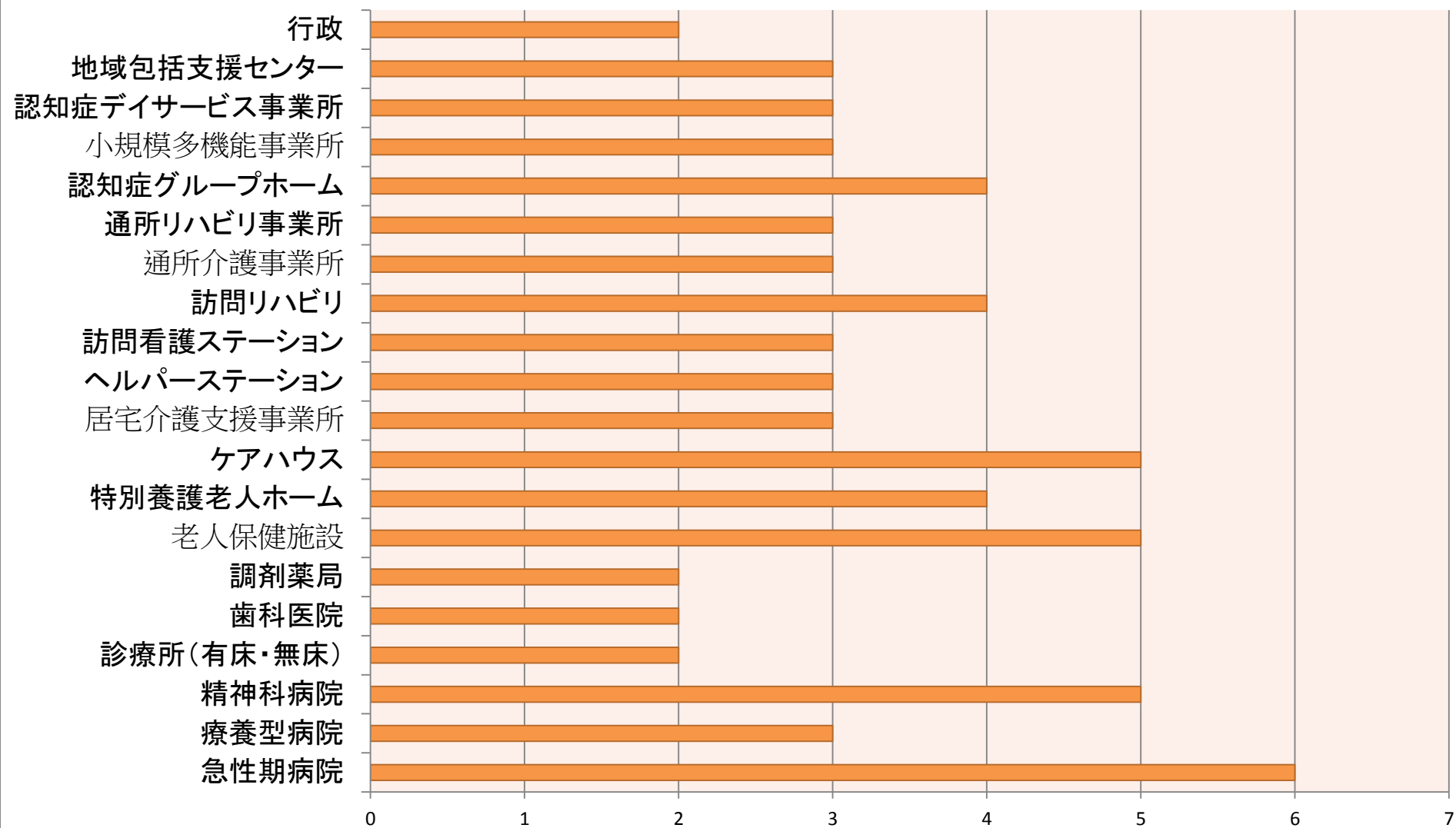


- ・可能病院、診療所: 4施設
- ・困難病院、診療所: 5施設

他の施設・病院から ターミナル(看取り)が困難な理由

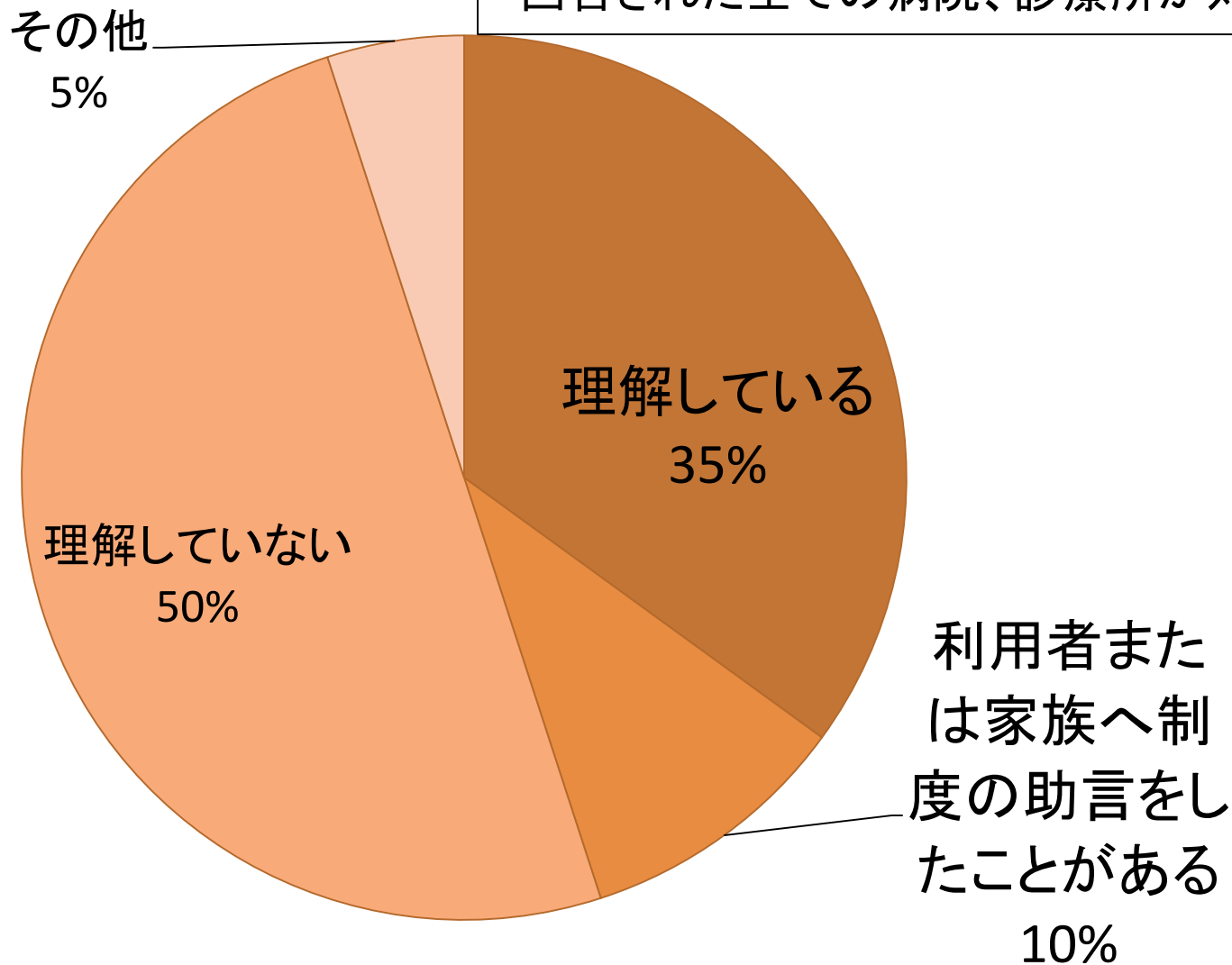


連携が困難であると感じる施設・病院



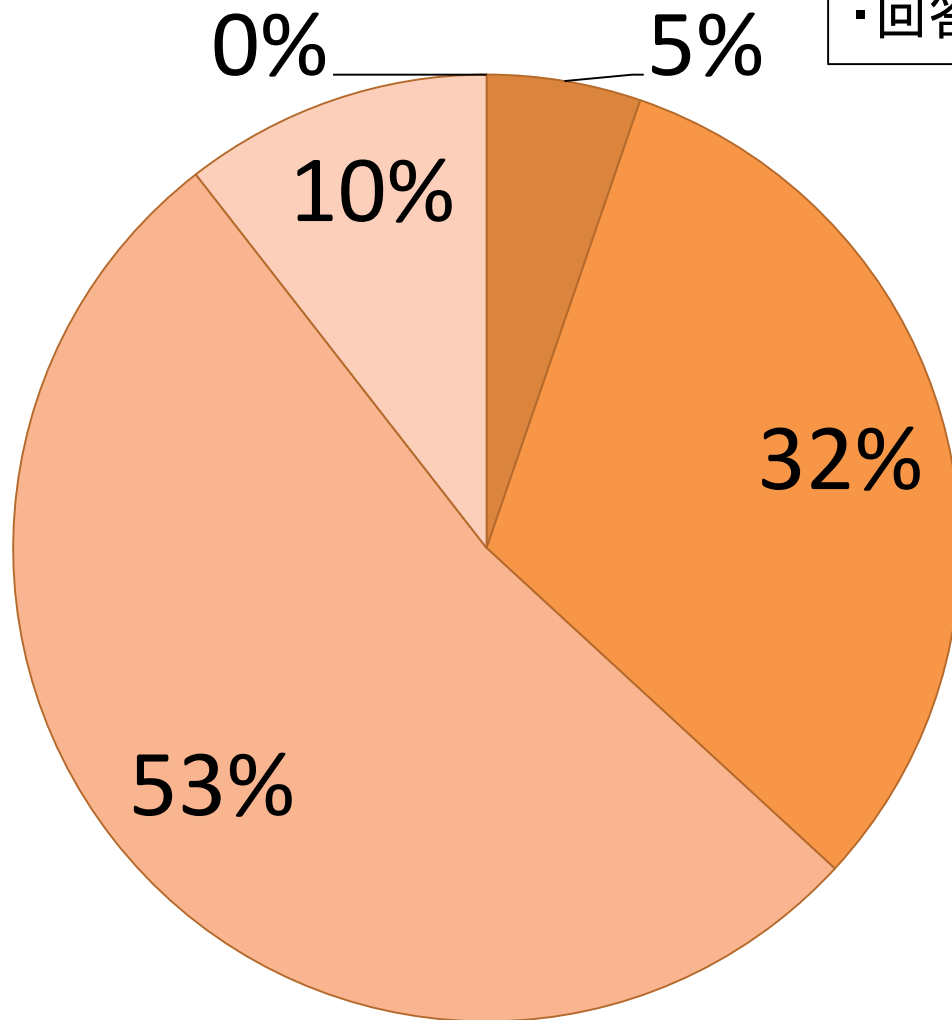
在宅患者訪問薬剤管理指導について

・回答された全ての病院、診療所が対象



当地域における在宅医療資源について

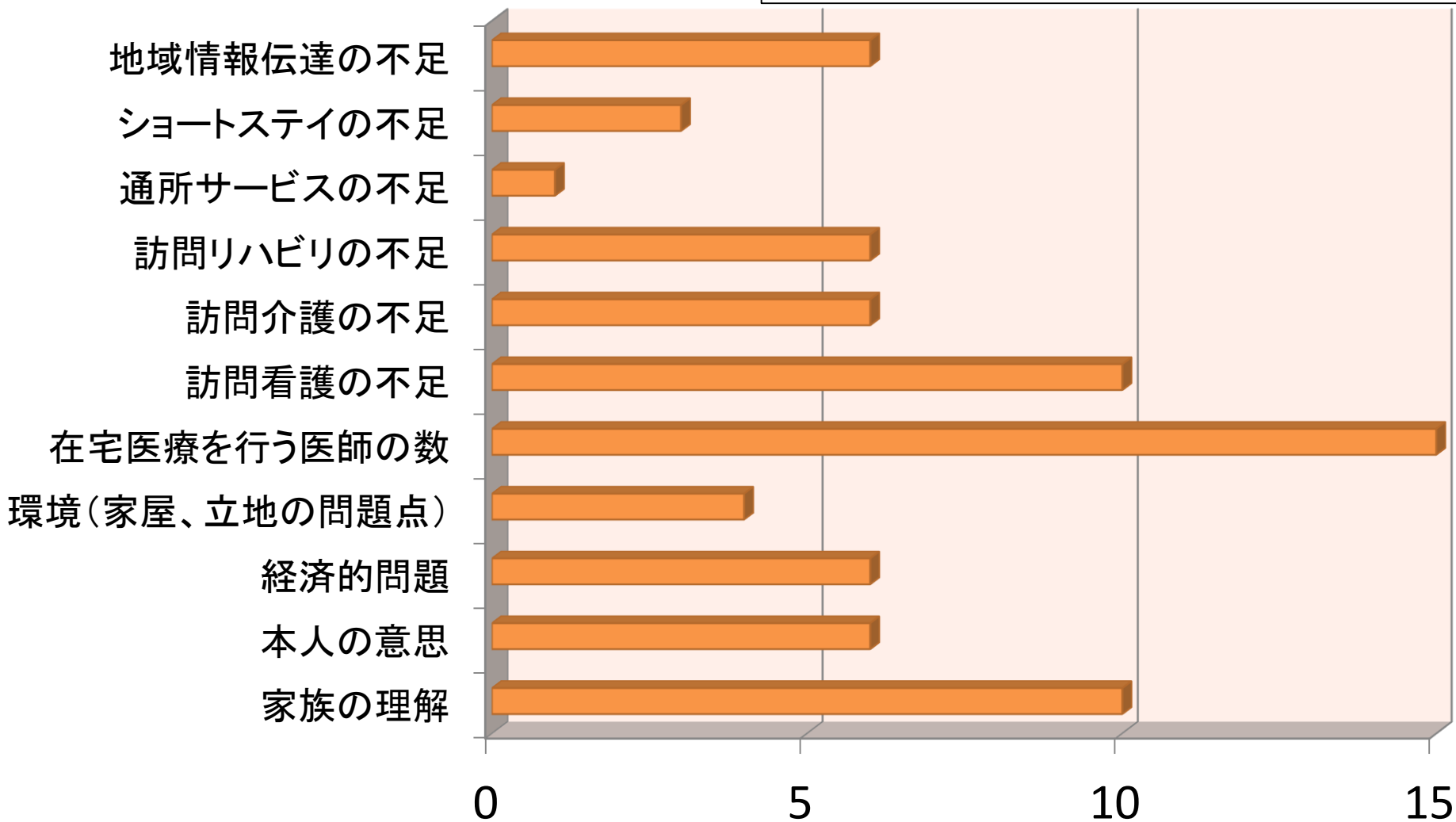
・回答された全ての病院、診療所が対象



- 十分に整っている
- まだまだ不十分であるが、それなりに整っている
- やや不十分である
- 不十分である
- その他

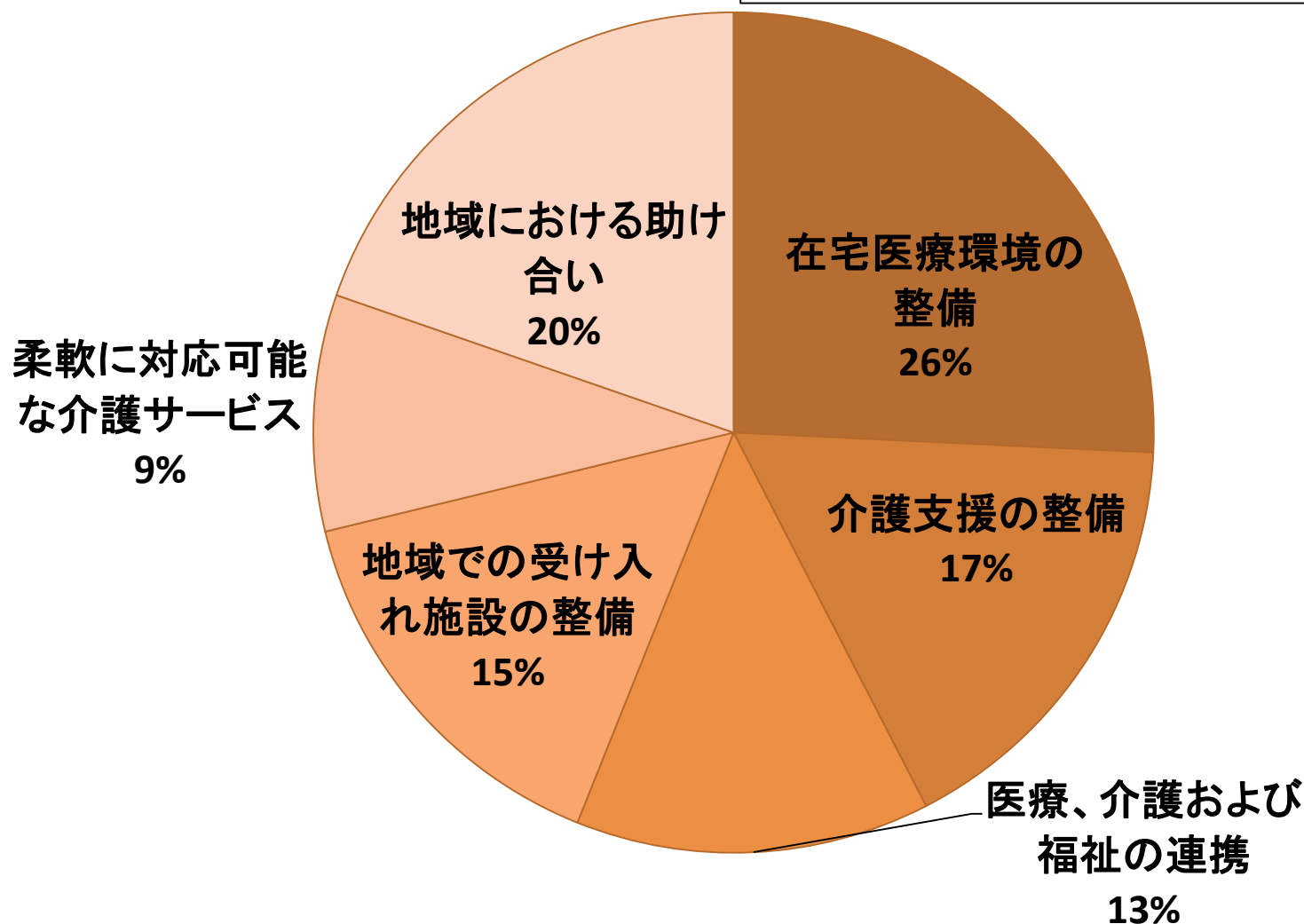
在宅医療を進める上での課題点

・回答された全ての病院、診療所が対象



在宅医療または施設での療養生活選択 のために必要な事項について

・回答された全ての病院、診療所が対象



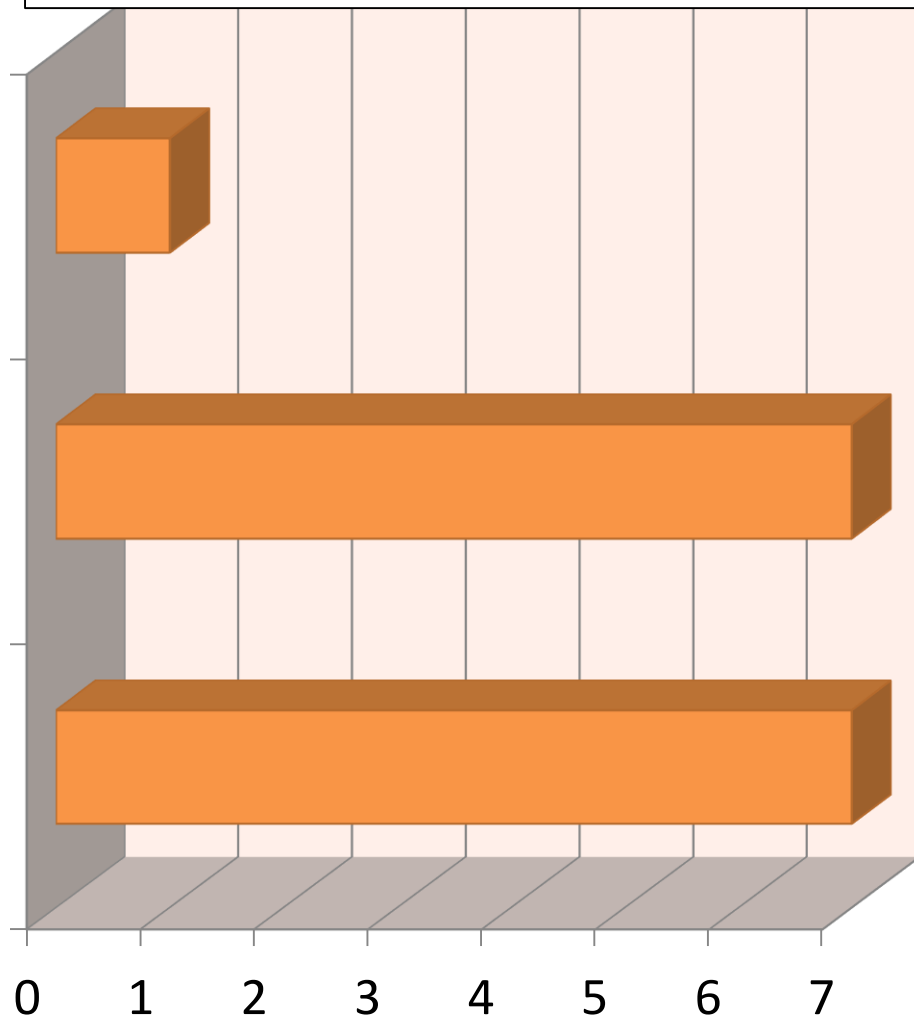
訪問看護の利用について

・回答された全ての病院、診療所が対象

訪問看護を利用したいが、どの様に活用
していいのかが分からない

訪問看護を活用したことはないが、今後
利用したいと考えている

訪問看護を利用したことがある



当地域における在宅医療の必要性について

特に必要性は感じない

0%

必要と思っているが、現在の診療
スタイルで十分である

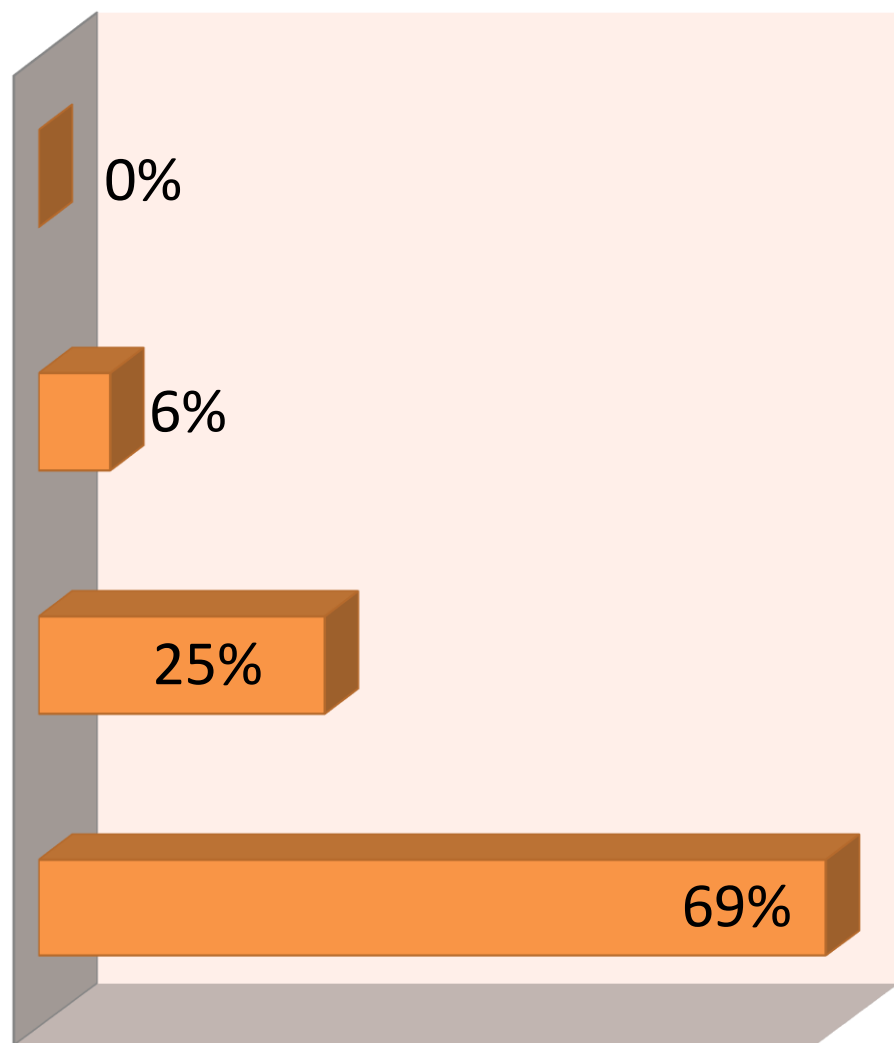
6%

とても必要であるが、現状ではどう
しようも出来ない

25%

とても必要であり、どうにかしたい
と思っている

69%



在宅医療推進に向けて医師会に望むこと

- ①連携が出来る様な話の場を作って欲しい
- ②在宅支援になると一部の医療機関に集中する可能性があって、対応が難しくなるのでは？
- ③息の長い取り組みを期待しております。
- ④個人で行うのはとても無理があるので中心となる病院(脳外科センター等)あるいは医師会が主となって一つ一つの問題・障壁となっている事案を集会など開いて提起してもらい解決し進んでいって欲しいと思います。
- ⑤いちき串木野市の人口推移では、平成17年32993名、平成22年 31144名(平成17と比較して1849名減)平成25年30335名(平成22年と比較して809名減)労働人口では、平成22年 14816名 この様に人口減少、労働力現象の中で、2025年までにいちき串木野市が存続できるか不明。また、医師会員の数は2倍にふくれあがり、医療人が老人医療、介護福祉という綿の旗のもと市の医療費をあげているのではなかろうか。乞う期待 在宅医療
- ⑥一人医師のため在宅医療参加は困難と考えます。まことにすみません。
- ⑦さくらネットをさらに発展していけばとおもっています
- ⑧在宅医療についてはまだまだ不勉強であるので、今後講習会等あれば参加してゆきたい。
- ⑨必ず実現すること

在宅医療を進める上でこの地域における課題と思われること

- ①産婦人科医にはなかなか答えにくい、あるいは分かりづらいアンケートです。できれば、それぞれの内容について説明して頂ければありがたかったのですが、(例えば産婦人科開業医にとって協力できる点など
- ②顔の見える関係での医療連携をさらにすすめていけばと思います。